

小6外国語科（中学校教員とコラボの効果）

4月より実施してきた表題の効果を探るため12月上旬6年生68名に「中学校の英語の先生と勉強して楽しかったですか」について4件法（はい、どちらかといえばはい、どちらかといえばいいえ、いいえ）と自由記述で尋ねました。

「はい」「どちらかといえばはい」の肯定的回率は93%と、とても高かったです。

その理由を自由記述から探ると、子供が感じている価値は、楽しいのはもちろんのこと、①英語の発音や内容に関することがよかったです。②中学校の先生の分かりやすく、ていねいな指導がよかったです。③担任とのコラボがおもしろかったです。④時折、中学校情報を話してくれるのがよかったです。等でした。

本調査から、「楽しさ」「教科の内容」「指導方法」「中学情報」の4つの効果が確認されました。今後は、小学校6年生が中学校の英語の授業を参観するなどし、より中学校英語へスムーズに接続できるよう実践していきます。



担任とのコラボも子供に好評

小学校の総合的な学習の時間
(中学校CAN賞のプレゼンを聴いて)

中学校のCAN学習で優秀賞を受賞した2組のクラスが小学校5、6年生全員を対象に、探究の成果を発表しました。探究テーマは「黄身（君）を助け隊」と「本当に成功しやすいボトルフリップとは」と、とてもユニークで、動機から探究過程、結果、考察まで、実演や失敗談を取り入れながら発表し、小学生を釘付けにしました。発表後は小学生からの質問が相次ぎ、やりとりする小中学生の姿に小中接続期の教育の在り方のヒントがあるように感じました。

以下、小学生の感想を紹介します。

- ・中学校に入るとこんなことができるんだとわくわくする。
- ・身の回りにあることを当たり前だと考えずに、色々なはてなを考えて研究している。
- ・自分も先を見通す力や意見を言う力をつけたい。
- ・すればするほど楽しいのだろう。早くしてみたい。



中学生のプレゼン発表

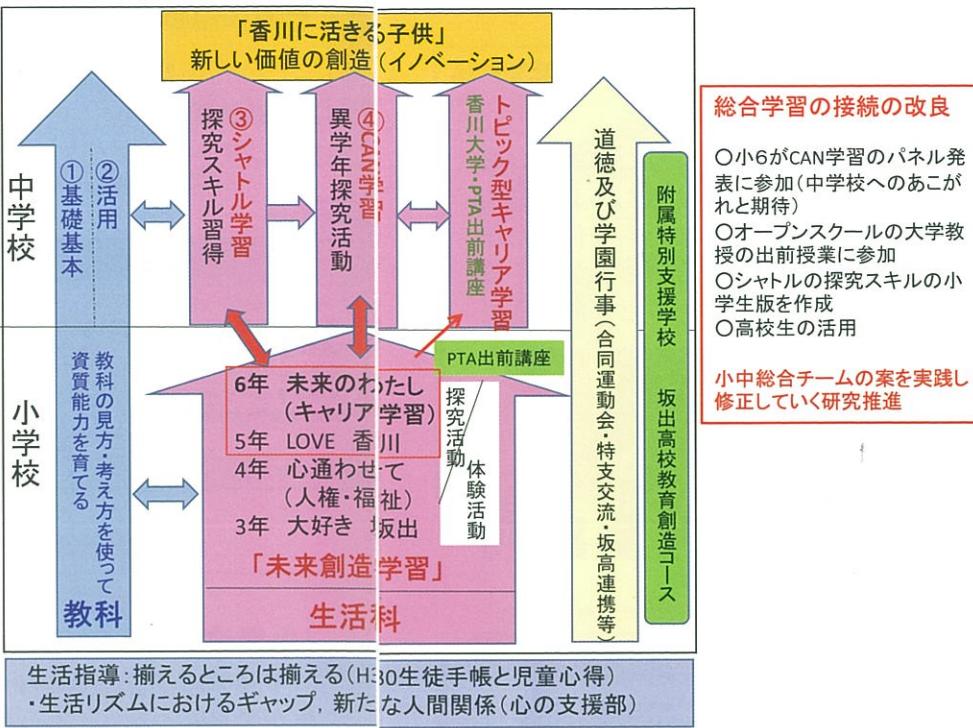


質問する小学生

学びをつなぐ附属坂出学園小中一貫教育の構想

同教科小中合同研修

- 互いのよさの共有（中の専門性、小の発問、助言、発達支援等）
- 教科チームで発案・実施
- 小英語科、中英語科教員とのコラボ
- 小教員の中への乗り入れ、小中子供の合同授業等
- 教科チームの発案・実践による研究推進

小学校の総合的な学習の時間
(CANを取り入れた附小フェスタ)

今年の6年生は4月、10月に中学校へ行き、CAN学習の見学をしました。その際に学んだ追究の仕方や、プレゼンの仕方を活かしながら、附ッザニアを開きました。附ッザニアでは、自分が将来なりたい職業について調べ、その職業についてプレゼンテーションし、体験してもらうブースを作りました。保護者の方や、1年生まで幅広い客層の中で、どうすれば相手により分かりやすく伝わるのか、どんな体験をしてもらうとより職業のことを分かってもらえるのか試行錯誤しながらつくりあげることができました。当日、来てくれたお客様の笑顔を見たり、温かい言葉をもらったりし、6年生も大満足の附ッザニアとなりました。



附ッザニア

香川大学教育学部 伊藤裕康教授より

自らの課題を発見し、探し、成果を発表し、評価を受けるCANは、子供たちに責任をもたせて任せることから、学校文化となり生徒も誇りに思う附属坂中の校訓「自由と規律」の精神を端的に示す。さらにCANは、物語の三幕構造を成す。先にたちCANを進めた3年生が去り、残された2年生は、自分の興味・関心、問題意識に基づき新たに自らの課題を立ち上げ、共鳴した1年生が合流し、課題の探究が始まる。1幕「日常からの旅立ち」である。年度がかわり、新入生が合流し、試行錯誤しつつ探究を深め、成果を全校に公開し評価を受ける。2幕「非日常への冒險」である。CANを進める中で様々な課題を克服し、最後は研究着手から終了までを「CANLOG」にまとめて振り返り、一回りも二回りも自分たちの成長を自覚する。第3幕「新たな日常への帰還」である。CANは学びの成長物語、同校が追究する「ものがたり」の授業を教科外の視角から展開したものである。



CANの発表会に小学生・高校生が参加！

総合学習CANの中間発表会を、10月16日（水）に開催しました。今回は、附属坂出小学校の6年生が発表を聞いて、中学生の学びのすごさを実感したり、半年後からスタートするこの学習に意欲を見せたりしていました。また、坂出高校の教育創造コースの生徒も参加し、これまでアドバイスをしてきたクラスターに温かい声をかけたり、発表を聞いてそれぞれのグループの評価を行ったりしました。



中間発表会の様子

中学生の声

- ・高校生や小学生に聞いてもらうのは少し緊張して伝えたいことが伝えられるか不安でした。しかし、うなづきながら聞いてくれたり質問をしてくれたりした時は、分かってくれているんだと思い安心しました。
- ・たくさんの質問をもらい、自分たちがこの探究で足らなかったこと、欠けていたことに気づくことができました。これから本番の発表に向けて工夫できる点や改善点を見つけて頑張りたいです。

小学生の声

- ・中学校ですることの実感がわきました。中学生になって早くCAN学習に参加したいと思いました。
- ・質問に対してしっかりと答えられていてすごいと思いました。私は授業の中で質問されたら答えられないことが多いので、中学生みたいに質問に答えられるようになりたいです。

高校生の声

- ・どのグループもくわしく調べられていました。失敗しても、次はこうすれば良くなるのではと、いろいろなアイデアを出していたのがすごかったです。



真剣に発表を聞く小学生

【優秀研究 CAN賞】

- 「石けんの研究4」
- 「本当に成功しやすいボトルフリップとは」
- 「書の魅力をストーリーで伝えるためには？～色と音の効果について～」
- 「サザエさん一家、坂出に引っ越し」
- 「黄身（君）を助け隊」



発表を評価する高校生